

文化新聞

平成29年11月22日(水)発行

第19707号

公共施設マネジメントに関心を

飯能市・入間市・駿河台大学合同シンポ

飯能市・入間市・駿河台大学合同シンポジウム「公共施設マネジメント」が、新会場に開催され、来場者は熱心に耳を傾けた。公共施設マネジメント合同シンポジウム実行委員会(塚本美恵子会長)の主催。

飯能市・入間市の5者で実行委員会を構成。公共施設マネジメントについて同市の市民や関係者に関心を持ってもらおうとともに、市民自らが考えていく必要がある課題であることを認識してもらいたいという目的で実施された。

同市をはじめ、日高狭山、薄くはさいたま、熊谷市などからも来場者があつた。

2部構成で行われ、第1部の基調講演では、「今後の公共施設のあるべき姿とは」と題して、佐々木陽一氏(PIIP総合研究所主任研究員)が、公共施設のマネジメントとは何か、これからの期待など公共施設マネジメントを通じたまちづくりと市民の関わりなどについて話したほか、「単なる施設のリストラではなく、まちの将来展望につながる施設のリストラが出来るかがとても大切」と述べた。

第2部のパネルディスカッションでは、熊田俊郎氏(駿大法学部教授)がコーディネーターを務め、「公たなまちづくり」をテーマに実施。飯能・入間市に關



第2部では、各視点から議論が行われた

保のある4人のパネルリストが、住民・学識者・民間事業者としての各視点などから、今後のまちづくりにおける公共施設の役割やあり方、公共施設マネジメントを進めるにあたって市民がどのように関わるべきかなどについて議論が行われた。

参加者からは、「次世代へ負債を残さないように考えていきたい」「まちづくりには市民の熱意が必要であると改めて感じた」「公共施設の削減とまちづくりの両立は難しいと感じた」「市民の参加するコミュニティ施設(地域活動拠点)を育成できれば、市民のつながりが増えると思う」となど、様々な感想が寄せられた。